

# 九州正教会だより

第63号



(福岡・熊本・人吉・鹿児島)

2024年12月1日発行

発行人：司祭グリゴリイ水野 宏

〒811-2232 福岡県糟屋郡志免町別府西 2-7-1

TEL / FAX 092-410-0540

mail ocj.kyushu@gmail.com

ウェブサイト <https://www.ocj-kyushu.com/>



## 私たちは生ける神殿

司祭グリゴリイ 水野 宏

12月4日は正教会の十二大祭の一つである生神女進堂祭です。

教会の伝承によれば、生神女（イエスの母）マリヤの両親はヨアキムとアンナといい、信仰に篤い人でしたが、高齢になっても子宝に恵まれず、大変肩身の狭い思いをしてきました。そこで彼らは神に熱心に祈り、もし神が子を授けてくれたら、その子を神に捧げると誓いました。

その祈りが神に届き、二人に娘が授かりました。彼らは娘をマリヤと名付けて大切に育てました。そしてマリヤが三歳になった時、ヨアキムとアンナは神への誓いを果たすため、マリヤを神に奉仕させるために自分たちの手元から離してエルサレムの神殿に預けました。

これを記念する祭が生神女進堂祭です。祭日のイコン（左上）は両親に連れられて神殿に来たマリヤが、司祭長ザカリア（後の洗礼者ヨハネの父親）に迎えられた場面を描いています。

この出来事、すなわちマリヤが神殿に預けられたことを祝う理由は、彼女自身が後に「生ける神殿」となったこと、つまり神の子を胎内に宿したことを預象するものだからです。

そして「生ける神殿」であるのはマリヤだけではありません。マリヤを通してイエス・キリストが生まれた、つまり神が人となってこの世に生まれ、私たちを救ってくださったと信じて洗礼を受けている私たち信者も、一人ひとりの中に神がいてくださっているのです。

使徒パウロも「あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです」（コリント前6:19）と書いています。

いま、九州管区では福岡での新聖堂建設を目指しています。しかし大事なことは、いくら聖堂という地上の建物が立派でも、神はその中に住んでいるのではなく、そこに集う私たちの中に住んでいるのです。その「生ける神殿」である私たちがお互いを敬い、慈しむことを通して、新聖堂を持つにふさわしい信仰生活を目指して参りましょう。